

函館おしま病院で活動する20人のボランティア かけがえのない時間を大切に過す

函館おしま病院総看護師長の間島敦子さん

設、現在はボランティアメンバー20人が登録され活動をを行っている。

「病院の理念や運営に共感をもつ方にボランティアになっていただき、院内に社会の風を通してもらうことが導入の大きな目的でした」と同院総看護師長でボランティア委員会委員長の間島敦子さんは説明する。

函館おしま病院では、ホスピスだけでなくどまらず、全病院的にホスピス理念を大切にしており、ボランティアはチームケアの一員に位置づけている。ボランティア養成の講習会では、院長のほか間島さんなどが講師となっており、それぞれ「ホスピスのこころと当院の理念」「ホスピスケア」「当院における個人情報保護」「当院における地域連携」「ボランティアの役割と心得」などについて講習を行っている。

医療機関や介護保健施設等、特にホスピスでは職員と共に多くのボランティアが活動をしている。平成十六年からボランティア活動を導入した函館おしま病院（福徳雅章院長）も翌十七年には養成講座を開

「ボランティアの講習を受ける皆さんには全員がホスピスマインドを十分に理解してもらえるように努めました」。全講座終了後は書類審査、面接、健康診断と進み、最後にボランティ

ア登録証が渡されるボランティア認定式。これでいよいよ活動開始となる。

同病院のボランティアは「ミント」という名前であるが、これは「かけがえのない時間」という花言葉から命名したものだという。これを提案したのは第一期のボランティア。ホスピス理念には相応しいピツタリ

活動は定期的なものでは、喫茶やアロマセラピー、絵

手紙などがあるが、その他にもテーブルフラワー、ガーデニング・菜園作り、コンサート、フラダンス、さ

らには、介護病棟ではキーボード演奏と紙芝居、本の読み聞かせや患者の話し相手になったり、医療器具を包む手作りのカバーを作ったりと実に数多くの活動が行われている。

ホスピスでは毎週金曜日の午後は喫茶コーナーを開いており、取材当日は根本



写真左から根本登志枝さん、間島敦子さん、南條美紀子さん、嶋森節子さん

登志枝さん、南條美紀子さん、嶋森節子さんの三人がお茶とお菓子の準備をしていた。

根本さんはソーイングの特技を活かした活動も行っている。「喜ばれるのはうれしいですね。ここでの活動は、とても充実しています」（根本さん）。夫の家族の通院をきっかけに広報誌でボランティアのことを知った南條さんは趣味のアロマセラピーをボランティアに活かしている。「ホスピスのことに共感したのはボランティアに応募したきっかけです。自分の時間も充実させようとするようになりました」（南條さん）。

お花を用意して活けるボランティアを続けてきた嶋森さんは「私自身が楽しんでやっています。今後も出来る限りやっていきたいです」と話す。

間島さんは「チームケアとしての一員としてボランティアの活動は重要な役割をもっています。私たち医療者にとってもボランティアから学ぶことがとても多いですよ」と話をしていました。